

# 日常的志愿者活动

在日本，1970年代至1980年代，志愿者一词逐渐在一般国民中普及。1970年代的家电产品普及，使大量的劳力从家务中节省出来。在这样的社会大背景下，人们的空闲时间增多，参加社会活动的意识也随之提高。与之同期，国家制定了向市、町、村社会福利协会下属的志愿者中心发放补助金的政策，各级行政部门也开始关注志愿者活动。1980年代，日本国际志愿者中心成立，并首次参加了联合国志愿者活动，人们对国际志愿者活动的关心越来越高。

进入1990年代，企业致力于社会公益活动的热情不断高涨。有些企业设立了“志愿者活动假日”制度，经济团体联合会还成立了“1%俱乐部”，将企业利润的1%用于开展社会公益活动。此外，1991年设立了“国际志愿者储蓄”（2007年结束），就是把银行存款的一部分利息捐赠给国际志愿者活动。

## 志愿者活动元年

在人们对志愿者活动的热情不断高涨的时候，1995年阪神淡路大地震发生了。死伤人数约达5万人，为参加救灾活动，志愿者们从日本全国各地纷纷赶到灾区。据推测截止地震发生后的第13个月，参加救灾活动的志愿者达140万人，其中有很多是第一次参加志愿者活动的年轻人。为灾区群众做饭菜，分发救灾物资，清理、搬运垃圾，在避难所协助工作以及向受灾群众提供信息等等的志愿者活动受到社会的高度关注，志愿者的事迹成为社会美谈，人们参加志愿者活动的热情更高了。由此，人们把1995年称为“志愿者活动元年”。从那以后，每当各地发生火山喷发、地震、台风和洪涝灾害时，许多志愿者就会赶来参加救援活动。如今，发生灾害时的救灾志愿者



1995年1月的阪神淡路大地震发生后，志愿者们赶来为灾区群众做饭菜。

阪神·淡路大地震纪念 人と防災未来センター提供

近年来，日本国民对参与志愿者活动的关心日益高涨。因为参与志愿者活动不仅能对社会做出贡献，对本人来说也大有裨益，所以越来越多的人开始投身于志愿者活动。

已成为不可缺少的存在。

## 不断扩大的志愿者作用

不仅在发生自然灾害的时候，在日常生活中参加志愿者活动的人也越来越多。据2005年的统计，全国各地社会福利协会掌握的志愿者人数有将近740万人（占总人口的5.8%），从开始统计的1980年到2005年的25年间，增加了大约4.6倍。当然根据志愿者活动的定

义和调查方法的不同，参加志愿者活动的人数和比例会有差别。据另一调查报告（2001社会生活基本调查，总务省）显示，全年参加志愿者活动的人数占到总人口的28.9%。

今天，少子老龄化、环境问题的严重化、社区共同体关系的淡化、定居的外国人增加等社会环境发生了重大的变化，派生出多元化的需求。但是，仅仅靠政府的行政机构很难应对，所以人们对志愿者活动在更多的领域发挥其作用的期待更大了。



阪神淡路大地震发生后，志愿者们协助分发、搬运送到的救灾物资。

阪神·淡路大地震纪念 人と防災未来センター提供

## 志愿者的力量 使大海重新变蓝

1997年，发生了俄罗斯油轮纳霍德卡号的重油泄漏事故，流出的31,000桶重油，覆盖了日本海海面。为了挽救大海和渔业，志愿者们从日本全国各地赶来，同当地居民一起，冒着严寒，用桶和勺子往外排油。参加这次救援的志愿者多达30万人。在大家的努力下，预计5年才能复原的大海，仅仅过了4个月，便基本恢复原状。

阪神淡路大地震时，虽然马上从各地赶来了很多志愿者，但最初由于缺乏协调人员，所以无论是志愿者还是接受救援的一方都出现了不同程度的混乱。人们从中总结了经验，自那以后每当发生灾害时，首先在灾区成立志愿者中心，在中心的指挥下开展活动。纳霍德卡号重油泄漏事故就是吸取了阪神、淡路大地震时的教训，高效率地实现了志愿者之间的合作以及志愿者与行政机关的配合。

## 什么是志愿者?



“志愿者活动”没有明确的定义，时代和国家不同定义也有所差异，不过一般可以理解为：“自发性的、为了他人和社会贡献无偿劳动”

自古以来，日本人在从事农业活动时，都有互相帮助互相扶持的习惯。现在全国各地都设有町内会等基层组织，它以当地居民为中心，进行日常的街道清扫以及举办传统节日活动等。从贡献社会这一角度来看，这属于志愿者活动，但它不是自发性的活动，而是作为共同体中的一员应该做的工作。

在日本，“ボランティア”（志愿者活动）有时又解释为“<sup>ほうし</sup>奉仕”（奉献），二者经常混为一谈。但是，“奉献”的对象是国家、社会、长辈，不一定是出于自愿。这与“志愿者活动”自发性的主旨相违背，所以最近不再这样解释，而是普遍使用“ボランティア”这一词汇。

## 学校的志愿者活动



随着人们参与志愿者活动热情的高涨，学校也开始把志愿者活动纳入其教育范围，1998年以后，学习指导大纲中增加了提倡志愿者活动的内容。另外，有些学校在高中和大学的升学考试中，还把志愿者活动经历作为考核的一项标准。不过，这样就出现了为了得到好评而参加志愿者活动的情况，这违背了志愿者活动的本来意义，因此，对将志愿者活动经历纳入考核范围的做法褒贬不一。

## 什么样的活动居多?



根据日本全国社会福利协会所掌握的数据，2005年全国约有124,000个自愿者团体，其活动内容也涉及多方面。其中最多的是“保健、医疗、福利”，其次是“美化城镇”“促进儿童的健康成长”“促进社会教育”等。此外还有“振兴文化、艺术、体育”“保护环境”“维护人权及和平发展”“国际协作”等。

1960年代初，医院的志愿者团体开始活跃起来。至今“保健、医疗、福利”领域的志愿者活动已经有了很长历史，因此参加活动的团体也很多。具体的活动有：在医院等医疗设施做向导，用轮椅护送病人等。从日趋严重的老龄化问题成为舆论焦点的1980年代起，以老年人为对象的志愿者活动开始增多。具体活动有：去敬老院及残疾人设施当陪护、助手及开展交流活动、为老年人和残疾人做饭菜和配送等。

此外还有：改善生活环境的美化城镇活动、协助儿童体验大自然的活动、护送儿童上下学以及放学后的照看、社区清扫以及修建花坛等环境美化活动、向国外寄送物资等国际协作活动、

参与协助国际电影节等大规模活动的举办、旅游景点的向导等等。近几年，在日本定居的外国人增多，各地的日语补习班越来越多，这也是在当地志愿者的帮助下建立的。

最近，通过志愿者中心和网站能够很容易地获取有关志愿者活动的各种信息，所以不加入任何团体，以个人进行志愿者活动的人也在逐渐增多。



为老人做盒饭的社区志愿者



老人会的成员和小学生们一起清扫公园



中日两国志愿者为中国来的中学生补习日语



## 参加活动的是哪些人？



从职业上来看参加志愿者活动的人数比例：家庭主妇占 38.1%，退休人员占 24.5%，平时拥有较多自由时间的人居多。可以说，家庭主妇和退休人员是日常志愿者活动的主力军\*。

从过去一年里参加志愿者活动的人数比例的年龄段来看，15 岁以上 24 岁以下的人数比例最小，为 13.4%。其次是 25 岁以上 34 岁以下的人数比例，还不到 20%。35 岁以上 74 岁以下的人数比例最大，为 30% 左右。活动内容也根据年龄及性别有所不同。例如：十几岁的人喜欢参加“美化城镇活动”和“环境保护活动”，三、四十岁的人则喜欢参加“以孩子为对象的志愿者活动”。而五、六十岁的女性则更多参与“以老年人为对象的志愿者活动”\*\*。

\* 「全国ボランティア活動者実態調査報告書」（全国社会福祉協議会、2001 年）  
\*\* 「社会生活基本調査」（総務省、1996 年）



参加照看孩子志愿者活动的高中生

©TJF Photo Data Bank



小学生上下学时维护交通的志愿者

©上ノ原まなづくりの会



担任社区小学生棒球队教练的志愿者

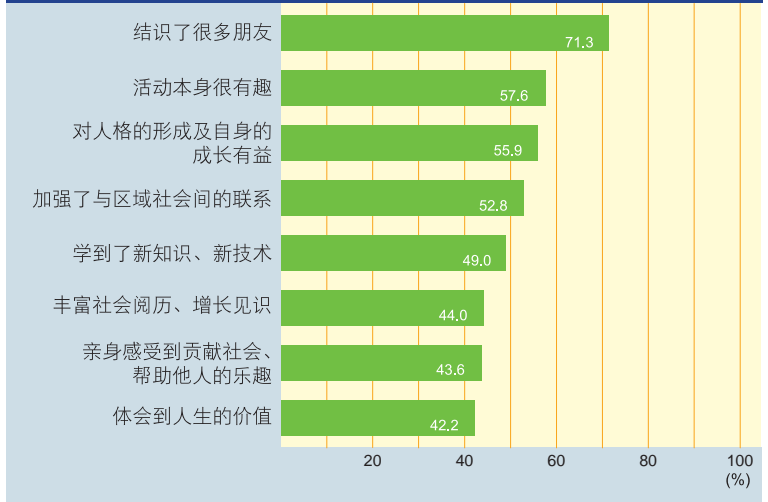
©筑井秀人

## 参加志愿者活动的收获



虽然很多人把参加志愿者活动的理由归纳为“回报社会和那些以前关照过自己的人”（40.8%）、“希望帮助有困难的人”（34.5%）等，但大多数人通过参加志愿者活动发现，其实志愿者活动也给自己带来了许多益处。比如：通过参加志愿者活动，找到了知音；对自己的成长有了很大帮助。

### 您参加志愿者活动的收获是什么？



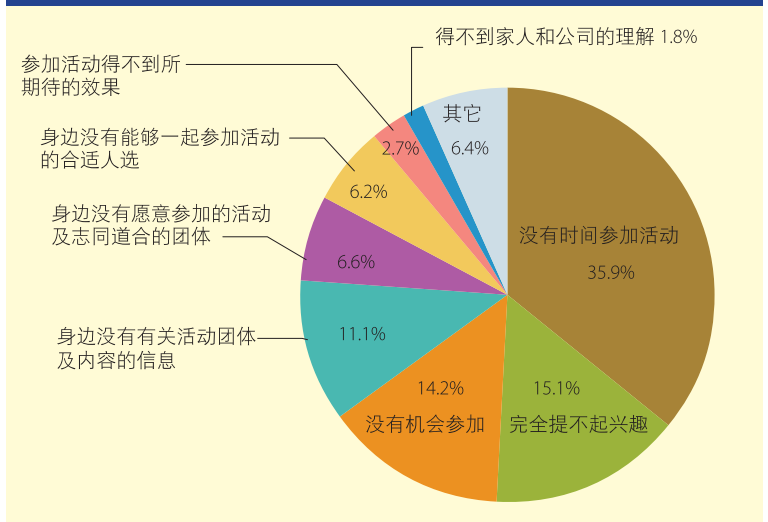
「全国ボランティア活動者実態調査報告書」（全国社会福祉協議会、2001 年）

## 不能参加志愿者活动的理由



据统计，有 65% 的国民愿意参加志愿者活动。但是，实际参加活动的人数却与统计数据有很大出入。希望参加志愿者活动而又不能付诸实践的原因究竟是什么？其中占最大比例的答案是没有时间，除此之外还有没有机会参加、得不到信息等。

### 参加 NPO（非营利组织）以及志愿者活动时让您感到为难，或者不能参加的原因是什么？



「国民生活選好度調査」（内閣府、2003 年）

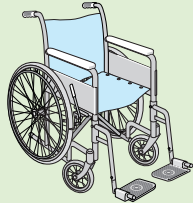


参加志愿者活动的高中生只占高中生总人数的 4.6%（《高中生的学习意识与日常生活调查报告》，财团法人日本青少年研究所）。大多

数人的理由是没有时间。下面向大家介绍几个长期坚持参加志愿者活动的高中生的例子。

## “会飞的轮椅”活动

栃木县立栃木工业高中联合当地社会公益活动团体以及 NGO(非政府组织)成立了“栃高国际志愿者网络”，主要以该校福利器械制作俱乐部(校内俱乐部活动之一)的学生为主体。从 1991 年开始，把县内外的许多医院和福利设施的旧轮椅整修后，捐赠给外国。迄今为止，已经向泰国、菲律宾、马来西亚、尼泊尔、中国、韩国、印度、斯里兰卡、肯尼亚等 21 个国家捐赠了约 1,785 台轮椅。现在，全日本已有大约 50 所学校参加了这项被称为“会飞的轮椅”活动\*。



在这项活动的基础上，这所高中还策划了一系列与之相关的活动，如在泰国举行“国际交流泰国志愿者活动”。每年，安排十多名学生去泰国参观访问八天，走访轮椅获赠单位并检修轮椅，同当地的泰国人交流。现场的修理工作非常困难，参加该活动的一个学生讲述了他的感想。

“（修理活动的第四天）我清楚地知道大家已经非常疲惫了。可是，没有一个人叫苦叫累，因为大家都在朝着同一目标努力。每当修理结束准备回去时，泰国人就会一直向我们挥手致意，每当此时我都会想：‘能参加这项活动，真是太好了。’”

\* 这项活动的事迹已经编辑成书

《空飛ぶ椅子》（会飞的轮椅）（文：井上夕香、画：鴨下潤、素朴社刊、2008年）

栃木县立栃木工业高中网站

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/tochigikogyo/>（日语）



© 栃木県立栃木工業高校

## 青年国际志愿者论坛

(YouFo : Youth International Volunteer Forum)

该论坛是自 2004 年起，为了促进国际志愿者活动的发展，每年在神奈川县举办的大型活动。该活动的策划和运作是由当地高中生组成的执行委员会负责。执行委员负责策划、涉外、宣传和当天工作的整体运筹，为了顺利开展工作，执行委员会中还设有执行委员长、副执行委员长、事务局长、副局长等九个职务，分别负责不同的工作。

论坛除了举办以“饥饿”“地球变暖”“医疗”等为主题的基调讲演和义演活动之外，高中生们还就各种国际问题进行调查，并为了解决这些问题开展活动，然后，将其成果在同龄人的论坛上发表，目的是让以高中生为主的年轻人对国际志愿者活动有所认识，并以此为契机参与进来。

YouFo 网站 <http://www.xn--s8jte2by2a.jp/index.html>（日语）



©TJF

## 雑学博士：「汉语」と「漢語」は同じ意味？

中国語の言葉のうち、日本語の漢字に置き換えると、そのまま日本語として同じ意味で使える言葉と、使えない言葉があります。次の言葉のうち、日本語の漢字に置き換えても、同じ意味を表すものはどれでしょう。複数あります。

- |      |       |       |
|------|-------|-------|
| 保健   | 医疗    | 福利    |
| 地震   | 海啸    | 台风    |
| 洪水   | 火山喷发  | 保护环境  |
| 环境问题 | 少子老龄化 | 社区共同体 |

★回答はひだまりウェブサイトに掲載しています。

<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>



# 人の役に立ちたい

## シヨーン

高校2年生、17歳  
神奈川県在住



### 子どもたちのためのボランティア

ボランティアを始めたのは中学2年生の頃です。僕の学校はキリスト教系の中高一貫校で、ボランティア活動をする委員会「愛の運動委員会」があり、僕はそのメンバーとして活動しています。ボランティアはいいことだと思っていたし、人を助けることにも関心があったし、また、友だちがその委員会に入るといので入りました。

委員会では、月に一度くらい日曜日に、さまざまな事情で親と離れて暮らす子どもたちの施設を訪問して、子どもたちといっしょに遊びます。委員会の最大の行事はクリスマス会で、毎年12月に施設の子どもたちを学校に招待して行きます。この活動はもう30年以上続いています。全校生徒に参加を呼びかけて、子どもたちと体育館やグラウンドで遊んだり、ゲームをしたり、学校のブラスバンド部の演奏会を行ったりして、一日中楽しめます。

子どもと生徒の2人でペアを組んで遊びますが、仲良くなって「もう帰りたくない!」と言われたこともあります。彼らが喜ぶのを見るのは楽しみですし、子どもたちと接して、心が洗われるような新鮮な気持ちにもなります。

### 飢餓問題について学ぶ

去年の夏、この委員会の先生の紹介で、「高校生公益活動リーダー塾」という活動に参加しました。福祉や国際的な公益分野の活動に関心を持つ神奈川県内の高校生約30人を対象にした活動で、次世代のリーダー育成をめざして、8月に2泊3日で開



高校生公益活動リーダー塾で班ごとに意見を出し合う

かれました。

専門家から市民社会や国際公益活動、障害や児童虐待などの現状について話を聞いたり、活動に必要なスキルを学んだりしました。さらに参加者の関心によって四つの班に分かれ、班ごとにプロジェクトを考えて、発表しました。

僕が参加した「医療・生命」班は、飢餓問題をテーマに選びました。飢餓の現状を知ってとても驚いたし、日本人にも身近な問題だとわかったからです。例えば、世界では8億人以上の人が常に飢えていること、その一方、日本では毎年2,000万トンの食糧が捨てられること、この2,000万トンの食糧があれば7,000万人が1年間食糧に困らないこと、日本も40年程前まではユニセフの食糧支援を受けていたことなど、いろいろなことを学びました。そして僕たちは、問題を解決するためには、単に食糧支援をするだけでなく、人々が自らの力で食糧を確保できるようにすることが大切だと考えました。また、子どもたちが学校給食で栄養を取れば、授業に集中できるし、就学率も上がるし、将来に希望を持って自らの問題解決に取り組めるのではないかと考えました。

そこで僕たちの班の6人は、チャリティー（慈善）イベントを開いて飢餓の現状を地元の小中学生に伝え、集めた資金を途上国の給食支援のために寄付する企画を考えました。

### 学んだことを行動に

リーダー塾の終了後も班のメンバーで相談し、自分たちにできることを行動に移したいと考えて、このチャリティーイベントを実現するための活動を続けました。

必要な経費を集めるために、イベントを行う小学校の地区の商店を1軒ずつ訪ねてイベントの目的を説明し、寄付をお願いしました。すると、目標の2倍以上の金額が集まりました。初めて会うお店の人に高校生が寄付をお願いするのですから、甘くはないと予想していたので、この結果には驚きましたし、とてもうれしかったです。

12月の日曜日に行ったイベントには、多くの子どもたちが参加

してくれました。楽しみながら、飢餓問題について学べるよう、いろいろな工夫をしました。模造紙20枚以上を使って飢餓について展示し、サッカーやわなげなどのゲームも用意しました。また、フリー



小学校で開いたフリーマーケット

編集：ターナー（動物相学生）

マーケットでは、メンバーの高校で集めたぬいぐるみや文房具を販売しました。小学生たちは、想像もできないような大変な生活をしている世界の子どものことを知って、驚いたようでした。小学生に飢餓の実態を知ってもらえたと確かに感じました。フリーマーケットなどで集めた資金15,000円あまりは、全てWFP（国連世界食糧計画）に寄付しました。

イベントの直前は準備をするために、週に3、4回集まらなければならなかったのが大変でした。でも、世界のいろいろな問題の実態を調べるだけでなく、その原因を調べ、解決に向けて自分たちには何ができるかを考えて、行動に移すことができました。とても有意義な活動で、濃い時間を持てたと思います。

### 多くの人に伝えたい

リーダー塾の参加者の多くはこのようにそれぞれ活動を続け、今年3月の「ユース国際ボランティアフォーラム」(YouFo)\*の開催にも携わり、これまでの活動について発表しました。今年は8校の34人がYouFoの実行委員になり、企画や渉外、運営など全てを高校生が行いました。僕は副実行委員長を務めました。

当日はリーダー塾の班活動の成果に基づく四つの展示、講師による基調講演、ベトナムへの青少年ボランティア派遣団の報告、手話講座など、さまざまなプログラムを行いました。若い人を中心に約200人が来場し、当日のアンケートを見ると、「すばらしい学習成果だと感心した」「ボランティアを一度やってみてみたいと思った」「毎年参加したい」などの反響がありました。



さまざまな問題について高校生が調べてまとめたポスターに見入るYouFoの来場者

### 考えたこと学んだこと

リーダー塾やYouFoに参加した、僕と同じ学年の仲間の多くが次回も参加しますが、僕は今回でやめることにしました。高校2年生になって塾に通う友だちが増え、受験を意識するようになったのです。将来の進路について考え、勉強を優先しないといけないと思っています。

YouFoの実行委員は1、2ヵ月に1回くらい、役員はそれ以外に月に2、3回集まり、さらに展示の準備をするための班活動もあります。会合は平日の放課後5時から9時までかかり、家に帰って落ち着くと10時になることもありました。その上、分担した作業を家でもすることもあり、負担が大きかったのですが、自分で決めたことなのでやり通そうと思いました。

また、学校のクラブ活動などと重なるとYouFoの会合に出られず、フラストレーションを感じることもありました。会合をよく欠席するメンバーもいて、どうやってみんなで情報や考えを共有するかは難しい問題でした。YouFoの活動内容についても、ボランティア活動をするのと、その活動について発表することの二つのうち、後者が中心になっていないかという疑問の声もあります。それには僕も共感する部分があります。

でも活動を通じて得たことはたくさんあったので、参加してよかったと思っています。まず飢餓問題の知識を得たこと。それから、展示にあたりどう工夫すればよいか話し合い、みんなの意見を反映しながら作り上げていく大切さを知りました。活動の仲間やボランティアをする相手の人と、どうやってより良い関係をつくるかも学んだと思います。一つのことを成し遂げた達成感や充足感も得られました。違う学校の仲間といっしょに活動するのは、時間や場所の点で大変でしたが、挑戦したいと思いました。苦勞して努力したからこそ、形になったときに喜びを感じるのだらうと思います。

僕たちの活動の要は人です。多くの高校生に、こんな意識を持ってこんな活動をしている高校生がいると伝えたいと思います。そのためには、もっと高校生を惹きつける工夫が必要でしょう。ボランティアと言うと敬遠されてしまうので、それを前面に出さないで、高校生が関心を持つことと結びつけるとか、魅力的なキャッチコピーを作るとかできたらいいでしょうね。それは究極の課題かもしれません。YouFoの活動はやめても、これからも学校の委員会でもボランティアをしながら考えていきたいと思っています。

将来の夢は医者になることですが、これも「人の役に立ちたい」という気持ちから選んだ道です。もし夢をかなえることができれば、地域密着型の医療に関係していきたいです。

\* Youth International Volunteer Forum の略。詳細は「今日日本」を参照。

この原稿は、ショー（愛称）さんへのインタビューをもとにまとめました。



## 我想成为有用的人

### 为了孩子们的志愿者活动

开始参加志愿者活动是在我初中二年级的时候。当时就读的是一所初高中一贯制的基督教学校。学校设有负责志愿者活动的“爱之运动委员会”，我作为委员会的成员之一开始参加志愿者活动。

我认为志愿者活动是一项很有意义的活动，而且对有助于他人的事很感兴趣，因此在朋友参加的时候我也自然而然地参加了。

委员会每个月都会挑选一个星期日安排我们去孤儿院访问，那里有许多因种种原因离开父母独自生活的孩子们。我们访问的目的是同孩子们一起嬉戏玩耍。

规模最大的活动是每年12月邀请孤儿院的孩子们来学校参加圣诞会，这项活动持续了30多年。我们发出通知，请全校学生都来参加，和孩子们一起在体育馆、操场玩耍，或是举行学校铜管乐队的演奏会，或是做游戏等等，共同度过愉快的一天。

孩子们和学生配对，两人一起玩耍，曾经有过孩子在和学生玩熟后不想回孤儿院的事。每次看到他们开心的样子我也很欣慰，而且和孩子们交流能够净化心灵，自己的心情也变得舒畅起来。

### 深入了解饥饿问题

去年夏天(8月)，经“爱之运动委员会”负责老师的介绍，我参加了为期三天两宿的“高中生公益活动干部培训班”。这项活动以关心福利和国际公益事业的神奈川县内30名高中生为对象，以培养下一代干部为目标。

在培训班上，由专家向大家介绍了市民社会、国际公益活动、残疾人和虐待儿童等现状，教授了志愿者活动所需要的技术。并根据参加者兴趣的不同分成四个组，以组为单位拟定活动计划并进行发表。

我所在的“医疗与生命”小组选择了饥饿问题。在了解了饥饿的现状后我非常震惊，因为这个问题对日本人来说也同样是当务之急。我了解到目前，全世界有8亿多人处于饥饿状态，而日本每年丢弃2,000万吨粮食，如果有了这些粮食，将有7,000万人1年内不用为粮食发愁。此外，还了解到日本在大约40年之前也一直接受联合国儿童基金会的粮食支援等等。我认为要解决饥饿问题不仅需要进行粮食支援，当地人们自力更生确保粮食产量也非常重要。由此使我联想到：如果儿童能从学校伙食中获取更多营养，上课就能集中注意力，如此一来升学率提高，孩子们的未来就会充满希望，这样他们才能在解决当地问题上发挥积极的作用。

因此，我们组的六个人策划了举办慈善活动，让当地的小学生了解饥饿问题的现状，并把募捐到的钱捐赠给发展中国家用于改善学校伙食。

### 学以致用

干部培训班结束之后，我与班内的成员在一起商讨，决定把我们在培训班拟定的慈善活动计划付诸于实践，于是，为了实施这个活动计划开展了一系列活动。

首先，为了凑足所需经费，我们一家接一家地走访了作为该活动场地的小学所在社区里的商店，向他们说明来意并希望他们捐款，用这种方法我们筹集到的资金是预期金额的两倍多。之前我们早已做了充分的心理准备：从未谋面的高中生要求初次见面的店主们捐款，绝不是件容易的事。所以对筹集到如此多的资金既感到吃惊又非常高兴。

12月份的一个星期日举行的慈善活动，有许多儿童都来参加了。为了让孩子们在游戏中学习和了解饥饿问题，我们精心策划了这次活动。我们用20多张铅画纸制作了世界饥饿现状的展示内容，还准备了足球、投环等游戏，另外还在义卖的地摊上出售从培训班成员的所属高中收集来的布玩具和文具。当参加活动的小学生们了解到世界上有那么多孩子过着他们无法想像的苦难生活时，都流露出震惊的神情，我们确信他们是真正地认识了饥饿的现状。我们把这次活动筹集到的

15,000多日元，全部捐给了WFP(联合国世界粮食计划组织)。

虽然在这次活动举行之前，我们每周要进行三、四次的集会，非常忙碌。但我们不仅对世界各种问题进行了实况调查，还追究其原因，认真思考自己能够做什么然后付诸于实践，我认为这很有意义，充分利用了时间。

### 希望告诉更多的人

干部培训班的许多成员一直都在组织诸如此类的活动，另外，还参与策划了今年3月召开的“青年国际志愿者论坛”(YouFo\*)，并汇报了迄今为止所有活动的成果。今年八个学校的34人成为YouFo的执行委员，策划、涉外、运作全部由高中生负责。在执行委员会中，我担任副执行委员长的职务。

那天，我们策划了各种各样的节目：在干部培训班活动成果的基础上做了四个展示；安排了讲师的基调演讲；举办了援助越南的青少年志愿团成员的报告会、手语讲座等。大约有200人到场，主要是年轻人。很多人在我们当天做的问卷调查中写到：“这是个很了不起的学习成果，我很敬佩。”“我也很想尝试做志愿者”“每年我都想参加这个活动”等等，由此可见这次活动引起了很大反响。

### 想到的、学到的

参加干部培训班和YouFo的许多同伴都和我是一个年级，其中很多人都表示要参加下一次的培训班和YouFo，但是我决定放弃。因为到了高二，上补习班的同学越来越多，补习迎考的氛围逐渐浓厚，我也开始思考自己将来的发展方向，觉得毕竟学习是第一位。

YouFo执行委员每一、两个月集合一次，干部每月还要聚会两、三次，此外还有展示小组的活动。集会定在平日放学后的5点到9点，多少次回到家后就差不多10点了。不但如此，有时候回到家还得做所分担的工作，负担很重，但这些都是自己选择的事情所以下决心坚持下去。

此外，YouFo执行委员会的集会有时会与学校的俱乐部等活动发生冲突，这样就无法出席集会，这让我很为难。集会中有的成员缺席次数很多，这样，大家如何分享信息和交流想法成为难题。YouFo的活动分为两种：实际参加志愿者活动与活动成果报告会。我们时常听到这样的疑问：“两种活动中后者似乎占了主导？”对此我也确实有同感。

不过通过参加活动也使我收获了很多，能参加活动我真的非常高兴。首先，我学到了有关饥饿问题的知识。另外，设计展示会的时候，我会和同伴一起商讨各种方案，这让我懂得了做工作时听取大家意见的重要性。我还学到了如何与同伴和志愿者活动对象间建立良好的关系。同时，还获得了做成一件事情后的成就感与充实感。虽然不同学校的伙伴们共同举办活动会受到时间、地点的制约，但同时这也是挑战。大概正因为自己付出了心血、努力了，事情做成之后才会感到无比的喜悦吧。

我们的活动以人为核心。我想向更多的高中生传达的就是“以这样一种意识参加这样一种活动的高中生”的存在。为此，我们应该想办法吸引更多的高中生。因为一提到志愿者人们就会敬而远之，所以我们不应该把志愿者挂在嘴上，而是从高中生的兴趣入手，或者还应该思考一些吸引人的广告词等等。如果能做到这些我认为非常棒，当然这或许是最终的课题。虽然我决定退出YouFo，但今后，我还会作为“爱之运动委员会”的一名志愿者去参加活动和思考更多问题。

我将来的梦想是当一名医生，这也是从“我想成为有用的人”这一出发点选择的道路。如果我的梦想能实现，我希望从事扎根区域社会的医疗事业。

\*YouFo:是青年国际志愿者论坛(Youth International Volunteer Forum)的简称。详细信息请参照《今日日本》。

(本文为《人物采访》的中文版)